

令和8年度第2回岡山県医療対策協議会 議事概要

1 日 時：令和8年7月9日（木）15時00分～16時40分

2 場 所：ピュアリティまきび 3階「橘」

3 出席者：別紙のとおり

4 議 題

（1）医師確保計画（後期）の策定について

（2）岡山県地域医療支援センターの運営について

①令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画（案）

②令和9年度地域枠卒業医師の配置方針（案）

（3）令和9年度の地域枠の設定について

（4）岡山県へき地医療支援機構の運営について

（令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画（案））

（5）令和9（2027）年度専攻医募集シーリング案等に係る意見について

（6）令和9（2027）年度専攻医募集においてシーリング枠外とする地域枠・自治医科大学卒業医師について

（7）令和8年度重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための代替医師確保支援事業等に係る支援対象について（案）

※協議事項（7）は、非公開。

5 議事概要

（1） 医師確保計画（後期）の策定について、事務局が資料に沿って説明した。

＜委員からの質疑・意見＞

診療所の承継・開業支援を説明いただいたが、具体策は決まっているか。

＜事務局等の回答＞

診療所に対して、承継・開業に際しての病院の施設整備や医療機器の設備整備、3年間の運営費等を補助するもの。

＜委員からの質疑・意見＞

過去に実例はあるか。

＜事務局等の回答＞

令和7年度から予算を計上し、本事業を実施している。令和8年度においても、予算計上しており、執行予定である。

＜委員からの質疑・意見＞

直近5年間で、県内の診療所が100減った。私自身、医師会で担当していて大変残

念に思っている。新規の開業もあるが、それを足しても5年間でマイナス100となっている。地域の医療を守っている町の先生方が、御高齢など様々な理由でやめていく中、このような支援により、地域の診療所の先生方により長く地域を守っていただけるということになればと思う。よろしくお願いします。

(2) ①岡山県地域医療支援センターの運営における、令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画(案)について、事務局が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

川崎医科大学の地域枠も対象にしているのか。

<事務局等の回答>

今ご説明した地域枠は、岡山大学医学部の地域枠及び自治医科大学の大学生を対象としている。

<委員からの質疑・意見>

大変素晴らしい試みでありがたいことだ。地域の病院で勤務して、赴任された病院や地域を大好きになって、残っていただけるように、ぜひよろしくお願いしたい。

私自身も研修医の時に県北の病院に勤務していたし、岡山県内が大変素晴らしい地域だと思っている。若い先生方にも地元に残っていただけるとありがたい。

他の県で、この地域枠から外れた際に金銭的なペナルティがあると新聞報道で見たが、岡山県でそのようなことはあるか。

<事務局等の回答>

本県の地域枠については、入学する際に説明して了承を得ている。離脱の申し出があった際は、地域医療人材育成講座の先生方やセンターで面談等による慰留を行った上で、それでも離脱の意思が変わらない場合は、当初申し伝えていたルールに従って貸付金に利息分を合わせた額を返還してもらっている。

<委員からの質疑・意見>

その点に関しては、当該先生方には御納得いただいているということか。

<事務局等の回答>

そのように認識している。

<委員からの質疑・意見>

津山中央病院は、県北唯一の臨床研修病院である。岡山大学と協力して、今年、合同セミナーの受入を企画しているが、ほかにも何か協力できることがあれば積極的に指導していきたい。病院として普段から地域枠医師や自治医師に指導できればと思うが、県や大学と協力の要望はあるか。どのようにしたらよいか。

<事務局等の回答>

地域医療の魅力ややりがいを感じていただけることが大事だと考えている。地域の病院の先生方が、岡山大学や川崎医科大学と一緒に、どんなことが出来るか、様々な場面で意見交換等しながら考えていきたい。

<委員からの質疑・意見>

川崎医科大学は、地域枠の学生をもっているが、あくまで川崎医科大学において岡山県内に配置するという独自のものだ。2040 年に向けてどのように医師を配置していくか、何か川崎医科大学が協力できないかと考えている。何か協力できることがあれば教えていただきたい。

- (2) ②岡山県地域医療支援センターの運営における、令和 9 年度地域枠卒業医師の配置方針について、事務局が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

なし

- (3) 令和 9 年度の地域枠の設定について、事務局が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

(受験資格となる) 出身者は、岡山県内の高校出身者か。

<事務局等の回答>

県内高校出身者又は保護者が県内に居住している場合が受験資格となる。

- (4) 岡山県へき地医療支援機構の運営について、岡山県へき地医療支援機構が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

一度の診療で何人くらい受診されるか。

<事務局等の回答>

様々だが、少ないときは数人。実情として、派遣が週 1 回から月 1 回になることがある。多いときは、20 人から 30 人くらい。

- (5) 令和 9 (2027) 年度専攻医募集シーリング案等に係る意見について、事務局が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

3 ページ目、②大学病院における医学生教育については、我々も岡山県には大学が二つあることを考慮するように文科省に対して以前から要望しているが、どのように計上するのかと言われている。

<事務局等の回答>

統計上、医療と教育の両方に従事する医師の数は分かっているので、その部分を正當に評価してほしいと要望していきたい。

<委員からの質疑・意見>

教育と臨床の割合は文科省に提出しているので、厚労省から文科省に問い合わせてもらいたい。

<委員からの質疑・意見>

シーリングがあることで専攻医が遠慮してしまう。昨年度の常勤指導医派遣数の加

算は遅かった。早く最終数を教えてほしい。

<事務局等の回答>

現場が困らないように、制度も含め、スケジュールを早めに出すよう要望していきたい。

<委員からの質疑・意見>

医師数の根拠となっているのは、年度末に保健所に報告しているものか。

<事務局等の回答>

医師が隔年で直接回答する最新の三師統計がもとになっている。

<委員からの質疑・意見>

診療に従事している医師数か。

<事務局等の回答>

そのとおり。

<委員からの質疑・意見>

資料6－1、3ページの要望事項①の「シーリングの適用を緩徐に行うこと」と求めているが、この緩徐というのは、今年は適用しないで、2、3年延ばしてくれということか。

<事務局等の回答>

2、3年後など、具体的な期間は念頭に置いていないが、過去3年平均で算出すると、一気にシーリング数が下がる年度も出てくることから、何らかの激変緩和措置を講じていただきたい、という趣旨である。

(6) 令和9（2027）年度専攻医募集においてシーリング枠外とする地域枠・自治医科大学卒業医師について、事務局が資料に沿って説明した。

<委員からの質疑・意見>

なし

(7) 令和8年度重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための代替医師確保支援事業等に係る支援対象について、事務局が資料に沿って説明し、委員の承諾を得た。

以上